

期 中 の 評 価 個 表

事業名	緑資源幹線林道事業	事業計画期間	平成6年度～平成25年度
事業実施地区名 (着工中区間) (都道府県名)	日吉・松野線 (日吉・松野区間) (愛媛県)	事業実施主体	独立行政法人緑資源機構
事業の概要・目的	豊富な森林資源に恵まれた地域において、基幹的な林道を整備し、林業を中心とした地域振興を図る。 延長53.7km、幅員7.0m		
費用対効果分析 の算定基礎となっ た要因の変化	日吉・松野線について費用対効果分析を試行した結果は、以下のとおりである。 総便益(B) 37,298百万円 総費用(C) 32,144百万円 分析結果(B/C) 1.16		
森林・林業情 勢、農山漁村の状 況その他の社会経 済情勢の変化	関係町村の森林の人工林率は70%であり、民有林は86%である。また、受益地の人工林率は65%であり、民有林は99%である。 受益地では、前回の評価時よりも素材生産量の実績が増加しており、今後は間伐の施業量及び素材生産量が増加する見込みである。 本路線は谷沿いに行き止まり線形で整備されている複数の林道等と一体になる。 日吉村で生産された素材は主に日吉村の木材市場へ、松野町で生産された素材は主に広見町の市場に持ち込まれている。 本路線は、日吉村南部の森林地帯から広見町の市場への新たな素材輸送ルートとなるほか、愛媛・高知間の素材の輸送ルートとしても機能することが期待される。本路線により、節安ふれあいの森への利用者の増加が見込まれる。起終点付近の集落では生活道として利用されている。 平成12年度に稀少猛禽類の生息情報を得たことから、緑資源機構において毎年モニタリング調査を実施し、工事実施時期等について、適切な措置を講じている。 濁水を防止するため、法面の切取工事後は速やかに緑化工を実施している。 舗装材への再生アスファルトの使用など資源の有効利用を図っている。		
事業の進捗状況	進捗率25% 周囲の景観との調和を図るため、丸太伏工を採用している。		
関連事業の整備 状況	整備後は国道を補完する地域の交通ネットワークの一部として機能することが期待される。		
地元(受益者、 地方公共団体等) の意向	効率的・効果的な森林整備の推進、安定的な林業経営を確立するための基盤施設としてだけでなく、点在する集落を連結し、生活道や農産物等の搬出路、集落間交通の改善や、災害時の迂回路としても期待されるなど、山村振興はもとより、東津野・城川線と広見・篠山線を連絡する路線として、また、高知県との広域ネットワークを形成するうえで重要な路線であるとして、愛媛県及び関係町村等は早期完成を要望している。		
事業コスト削減 等の可能性	施工能力の高い32トンブルドーザなどの利用の積算への反映、構造物への二次製品の採用や施工単価の安い側溝の採用により、コスト削減と工期の短縮を図っている。 鋼橋桁に塗装が不要な耐候性鋼を使用することにより、メンテナンスコストの削減を図っている。		
代替案の実現可 能性	該当なし。		
第三者委員会の意見	森林の有する多面的機能の発揮、林業・林産業の活動の見通し、地域振興への貢献度等を総合的に検討した結果、事業を継続することが適当と考える。 なお、引き続き稀少猛禽類のモニタリング調査に基づき、環境保全に配慮して事業を実施することが適当と考える。		
評価結果及び実施方 針	・必要性： 豊富な森林資源を有しているものの、過疎化等の厳しい条件下にある地域であることから事業の必要性は認められる。 ・効率性： コスト削減に努めているほか、費用対効果分析を試行した結果、費用以上の効果が見込まれることから、事業の効率性は認められる。 ・有効性： 森林・林業への寄与のほか、沿線の森林の総合利用施設へのアクセス道となることなどが期待されることから、事業の有効性は認められる。 事業の実施方針： 継続とし、引き続き稀少猛禽類のモニタリング調査に基づき環境保全に配慮して事業を実施する。		

